

6月10日のウクライナ情報

安齋育郎

①ウクライナ第2の都市で「侵攻開始以降 最大の攻撃」4人死亡 60人以上けが (テレ朝ニュース、2025年6月8日)

ウクライナ第2の都市ハルキウに、ロシアの侵攻が始まって以降、最大規模の攻撃があり、4人が死亡し、60人以上がけがをしました。

ウクライナ空軍によりますと、ロシア軍は7日未明、ハルキウをはじめ10の地域を、合わせて215のミサイルやドローンで攻撃しました。

7日午後にも誘導爆弾4発で攻撃し、これまでに合わせて4人が死亡し、60人以上がけがをしています。

ハルキウ市長は「侵攻開始以降、最大の攻撃だ」と指摘しました。

ロシアはこの他にもウクライナによるロシア空軍基地への攻撃「蜘蛛の巣作戦」への報復として、キーウなどに大規模な攻撃を続けています。

ゼレンスキー大統領は「ロシアの攻撃は報復ではなく、破壊だ」と非難しています。



<https://news.yahoo.co.jp/articles/bf4dca6431da1c3aa065956e2ddbf322dcfcbc55>

②まさにトランプの「外交的勝利」...NATO 加盟国が国防費の GDP 比 5%で大筋合意、「無理難題」が実現へ(Newsweek、2025年6月7日)

【ロンドン発】ドナルド・トランプ米大統領と米実業家イーロン・マスク氏が決裂し、SNS 上で壮絶なバトルを繰り広げる中、ロシアの軍事的脅威に直面する欧州の北大西洋条約機構(NATO)加盟国は対立を避け、トランプ氏に歩み寄った。

【画像】プーチンの愛人と噂される元清掃員、大富豪になっていた...その驚きの資産額

NATO 国防相会合に出席したピート・ヘグセス米国防長官は 6 月 5 日、加盟国が今後 10 年間で国防費を現在の国内総生産(GDP)比 2%から 5%に引き上げる目標について「合意に非常に近づいている」と、今月下旬にハーグで開催される首脳会議で合意できるとの見通しを示した。

「同盟は数週間のうちに 5%の拠出を約束することになる。うち 3.5%はハード面の国防費、1.5%はインフラ整備と国防関連活動費だ。この組み合わせが真のコミットメントとなる」とヘグセス氏は力を込めた。現在ハード面の国防費で 3.5%を上回るのはポーランドの 4.32%だけだ。

■同盟国全体で 1 兆ユーロ以上の追加支出が必要

出口が全く見えないウクライナ戦争の和平交渉を通じてトランプ氏の「脱欧入亜」があからさまになっても、米国の「核の傘」に依存する欧州の安全保障は米国抜きでは成立しない。NATO の要諦は欧州にとって「米国を巻き込み、ロシアを締め出す」ことに変わりはない。

ホワイトハウスに復帰する 2 週間前、トランプ氏は欧州を青ざめさせた。デンマーク領グリーンランドを手に入れるのに武力行使も排除しないと脅したばかりか、西欧とカナダに国防費を GDP 比 5%に引き上げるよう要求した。当時は無理難題に思えた要求が現実になっ

ていた。仏紙ルモンドによると、同盟国全体で 1 兆ユーロ以上の追加支出が必要となる。ロシアのウラジーミル・プーチン大統領がクリミアを併合した 2014 年に設定された 2%目標を達成している同盟国はまだ 3 分の 2 に過ぎない。5%への引き上げはまさにトランプ氏の外交的勝利と言える。

■英国は戦術核を搭載できるステルス戦闘機 F-35A 調達へ

中核国防費に 3.5%、国防・安全保障関連投資に 1.5%という妥協点を示した NATO のマルク・ルッテ事務総長は閉会後の記者会見で「われわれの抑止力と防衛力を強化し、10 億人の国民の安全を守るために今後数年間に投資すべき能力を正確に示している」と胸を張った。

ルッテ氏は同盟国がウクライナへの追加支援として今年だけで 200 億ユーロを超える拠出を約束したことを強調し、ウクライナへの NATO 支援を再確認。ロシアだけでなく中国とテロの脅威も挙げて「私たちは危険な世界に生きている」と大幅な軍備拡張を正当化した。

これまで報復用のミサイル原潜による戦略(長距離)核しか有してこなかった英国が 6 月 2 日発表した新たな戦略国防見直し(SDR)で低出力の米戦術核兵器 B61-12 を搭載できるステルス多用途

戦闘機 F-35A の調達も視野に入れていることを明らかにした。

■「核抑止力は同盟の安全保障の礎であり続ける」

NATO のニュークリア・シェアリング(核共有)の下、ベルギー、ドイツ、イタリア、オランダ、トルコが約 100 発の B61-3 を共有。トルコを除く 4 カ国で F-35A の配備が進められる。英国がこの枠組みに入ることによって戦術核使用をちらつかせるロシアを抑え込む狙いがある。

ルッテ氏は「核抑止力は同盟の安全保障の礎であり続ける。平和を維持し、強制を阻止し、侵略を抑止するために NATO の核能力が強固かつ効果的であり続けることを確保する」と述べた。米国が安全保障の軸足をアジアに移しても、核抑止力は米欧関係の要であることは不変だ。

同盟国の中でいち早く 5% に応じる考えを示し、合意の道筋をつくったドイツのフリードリヒ・メルツ新首相は 6 月 5 日、ホワイトハウスでトランプ氏と会談、大統領の祖父の出生証明書のコピーを贈呈し、貿易交渉の進展とロシアへの圧力強化に期待を表明した。

安全保障のタダ乗りを決め込み、中露との金儲けにご執心だったアンゲラ・メルケル独首相(当時)とトランプ氏の相性は最悪だったが、メルツ氏はトランプ氏に受け入れられた。欧州はトランプ氏の算術を受け入れ、貿易戦争とウクライナ戦争の難局を乗り越えようとしている。



<https://news.yahoo.co.jp/articles/9ac7a64a68493f1507a5f35a55b894e402e49fc8/images/000>

③ 「NATO 崩壊」視野に次の手を模索、リトアニア前外相 米国との信頼が揺らぐ中(2025年 6 月 6 日)



リトアニアのガブリエリウス・ランズベルギス前外相。2021年9月28日撮影 (Horacio Villalobos#Corbis/Corbis via Getty Images) (フォース ジャパン編集部)

リトアニアのガブリエリウス・ランズベルギス前外相は、北大西洋条約機構(NATO)とロシアのウラジーミル・プーチン大統領に対する懸念について、「シュレーディンガーの猫(訳注:相反する状態が重なり合って存在する状況)」という量子力学の用語を使って説明した。

筆者の取材に応じたランズベルギス前外相は、「われわれは曖昧な立場にある」と語った。米国のドナルド・トランプ大統領は欧州に対し、NATO への費用負担を増やさなければ米国は離脱すると脅すなど、扇動的な発言をしている。他方で、マルコ・ルビオ米務長官は先月、ベルギーの首都ブリュッセルで開かれた NATO 外相会合に姿を現し、欧州加盟国の指導者らを安心させた。ランズベルギス前外相はこれを「状況の正常化」と呼び、「NATO は試されていると同時に、試されていない」と語る。このように、NATO には混乱と不確実性が渦巻いている。これはプーチン大統領にとってはぞくぞくするほど完璧な機会を生み出す。

このシナリオがどのように展開するのかは想像に難くない。もしプーチン大統領が米ホワイトハウスに、ロシアとの関係を改善すれば米国が利益を得られると説得できれば(同大統領はすでにそれを確信しているようだが)、たとえ NATO 加盟国が攻撃されたとしても、トランプ大統領はその機会を危険にさらすことをためらうかもしれない。

それはランズベルギス前外相にとって最悪の悪夢だ。「トランプ大統領はこう言うだろう。『私はプーチン大統領と話し合っているところだ。これをほごにすることなどできない。君たちには申し訳ないが、力にはなれない。自分たちのことは自分たちでやってくれ』と」。ランズベルギス前外相は、プーチン大統領はすでに米国を一種の「宙に浮いた状態」に追い込み、NATO にとって重大な危険をもたらしているとみている。プーチン大統領は今こそ行動を起こし、欧州の現実を変えようとしているのかもしれない。

■欧州各国の首脳は NATO の次の手を検討し始めている

欧州各国の首脳が NATO の次の手について検討し始めているのも不思議ではない。トランプ大統領はかねてより加盟国に対し、米国は NATO から脱退すると脅してきたが、実際にそうする必要はない。冷戦時代から同盟国を守り、敵を抑止してきた NATO の信頼を、同大統領はすでに破壊しか

けているからだ。

欧州諸国が考えている次の手の 1 つは、ウクライナを支援するために結集した「有志連合」だ。これはトランプ大統領が 2 月、ウクライナのウォロディミル・ゼレンスキー大統領と激しい口論を繰り広げたことを受け、結成されたものだ。この連合の目標は、対ウクライナ軍事支援の継続のほか、ロシア政府との交渉の強化、ウクライナ国内に駐留する欧州の「安心供与部隊」が公正で永続的な平和を保証することだ。

一方、ランズベルギス前外相は先月、「有志連合が実際に何か意味のあること、ましてや形勢を一変させるようなことをする意志があるという証拠を見つけるのがこれほど難しいのはなぜなのか？」と述べ、この取り組みを厳しく批判した。同前外相は筆者に対し、有志連合の前提自体は間違っていないが、「われわれは世界が崩壊していく様子を目の当たりにしている。ここで脅威を回避するためには、それ以上のことをしなければならない」と説明した。

<https://news.yahoo.co.jp/articles/b1581f9759a58996a57d56f9afff3c42395d3a57/images/000>

④「もしも台湾が中国に侵略されたら…」フランシス・フクヤマが語る「日本が『核』を手にする」というシナリオ(COURRIER、2025年6月6日)

国際情勢が混乱しているときこそ、フランシス・フクヤマの意見に耳を傾けるべきだ。そうすることで、この混乱から少し距離を置いて考えることができるようになる。

米スタンフォード大学の研究者で、有名な学説「歴史の終わり」の生みの親、そして最近の著作には『リベラリズムへの不満』があるフクヤマが、仏「レクスプレス」誌の独占インタビューに応じた。

米国が権威主義国家陣営に突然寝返ったこと、19 世紀型の帝国主義の復活、さらにはドナルド・トランプの経済面での傲慢さについて氏は分析してみせ、トランプは選挙ですぐにその代償を支払うことになるだろうと言う。

「鞍替え」した米国

——「ドナルド・トランプの政権復帰」の歴史的インパクトは、どのようなものになるのでしょうか。1989 年よりも 2025 年のほうが歴史上の重要な転換点になるかもしれないと考えている人もいます。

米国は権威主義国家に豹変しました。ドナルド・トランプは本能的に米国憲法のぎりぎりのところで踏みとどまっていますが、それでも国内外に影響を及ぼしています。

実のところ、米国はトランプ政権下で弱体化するばかりです。この国は既に政治的な二極化によって弱くなっていました。そこにトランプ政権が、次々に官僚機構を破壊するイーロン・マスクのような人と一緒になって米国政府の破壊を進行させた。

これがどうしたら国を助けることになるのか、理解に苦しみます。本当に節約できるわけですらないのです。そしてこのことが意味するのは、これまで米国のソフトパワーに貢献してきた国際支援の手段がもはや存在しないということです。

西側世界の同盟関係を問題視し、積極的にロシアを助けることになってしまっているだけではなく、権威主義体制と民主主義体制の間の大きな戦いにおいて、まるで米国が鞍替えしたかのように見えるのです。

トランプはただ、新しいロシアが容易に浮上できるよう、あらゆる手を尽くしている。そこにどうい

う理由があるかは理解しがたいですが、残念ながらそれが現実なのです。

——どうしてトランプはプーチンと接近しているのでしょうか。そこにどのような動機があるとお考えですか。

トランプは1987年、ゴルバチョフ元大統領と会ったことがあります。そもそも軟弱すぎると感じてゴルバチョフのことは好きではなかったようですが。

面会后、トランプは新聞に数ページにわたる全面広告を出して、外交に関する自分の考えを主張しました。「米国はNATO加盟国の防衛のために支払うのをやめるべきだ」と訴えたのです。

こうしてソ連と立場を同調させ、その頃はまだ冷戦期でしたが、米国は同盟国に搾取されていると考えたのです。トランプはずっとこの路線を踏襲しています。2024年の11月に選挙に勝利してからは、今後、自分の考えを思う存分実行に移せるものだと考えて、親密な同盟国に食ってかかっては自由主義陣営の敵国に対する共感を示しているのです。

——プーチンはもうウクライナで勝利したと言えるのでしょうか。

プーチンが持っていた戦略は、ただトランプの返り咲きを待つことだけです。そうなれば、できるだけ多くのウクライナの領土を奪えると考えていたのです。

今後はすべてがヨーロッパの反応にかかっています。ヨーロッパにとっては大きなチャンスなのです。ヨーロッパは政治的な一致点を見つけなければなりません。そうすることでトランプにもプーチンにも抵抗して、ウクライナを支援することができるのですから。



<https://news.yahoo.co.jp/articles/6d2458e861f717f9c9a711bd07d8615700dbecbe/images/000>

⑥すべてを失ったウクライナ - 崩壊の危機 | ジェフリー・サックスとスコット・リッター (2025年6月7日)

<https://youtu.be/6fgA9YBgNlY>



<https://www.youtube.com/watch?v=6fgA9YBgNIY>

⑥【戦況】前進が止まらない…6/8 日曜版です ☺ ↓ !! (ニキータ伝～ロシアの手ほどき、2025年6月8日)

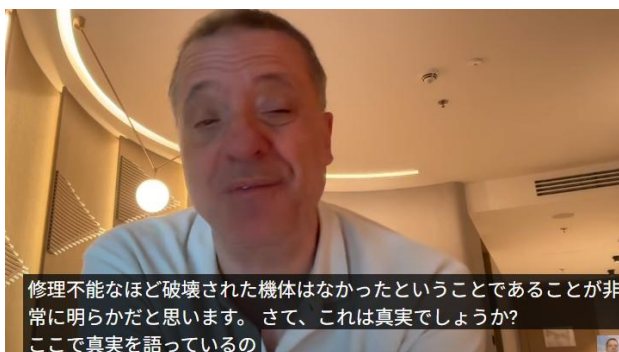
<https://youtu.be/8F-ZqHNtQyk>



<https://www.youtube.com/watch?v=8F-ZqHNtQyk>

⑦ モスクワ、ウクライナのドローン攻撃に関する米国の否定を軽蔑、英国を非難、強力な報復を準備(2025年6月7日)

<https://youtu.be/cIzHDWMprDg>



<https://www.youtube.com/watch?v=cIzHDWMprDg>

⑧ダニエル・デイビス中佐:トランプはゼレンスキーを解任すべきだ - 彼は理性的な行動者ではない(2025年6月7日)

<https://youtu.be/EOVcc0ns808>



<https://www.youtube.com/watch?v=EOVcc0ns808>

⑨【時事ネタ】追い詰められたキエフ政権～6/7 土曜版です🌀!!(ニキータ伝～ロシアの手ほどき、2025年6月7日)

<https://youtu.be/K-nUGfZ9tkE>



<https://www.youtube.com/watch?v=K-nUGfZ9tkE>

⑩対口関係改善のために【鳩山友紀夫(由紀夫)】【及川幸久】【特別事前対談】【THE CROE FORUM 2025 夏】(2025年6月5日)

今そこ、日本はロシアとの関係を変えるべき！

鳩山由紀夫元総理にインタビューしてみた

- この動画を見て、鳩山由紀夫という人物について見方が変わったという人が続出しています。一旦、偏見を横に置いて、ご覧ください。

<https://youtu.be/DKcsECgGdd0>



<https://www.youtube.com/watch?v=DKcsECgGdd0>